



菊池 幹さん…建具師として50年。がっしりとしたその手からは想像もできない、繊細で優雅な組子を造り出す職人のひとり。木は生き物。その日によって伸びたり、詰まったりするから木の特徴を見ながら細工しないとね。長年の勘だけが頼りの細かい作業だが、その技をせひ、後世に伝えて欲しい。

木や水と語り合うことも、この町を知るための、方法かもしれませんね。



良質の木を生かした木工加工品

こんにやくもち、登り鮎、奥久慈の清流、
貝化石もなか、金壺石、笑福まんじゅう



さしみこんにやく



か、栗をチョコで包んだ『金壺石』、
塙の名水仕込焼酎入の『笑福まんじゅう』など種類も豊富に揃っています。
木の町として知られる塙町には、
樺や桧などの良質な木材が豊富にあるため、その特徴を生かした加工品
づくりが盛んに行われてきました。
特に樺を使ったテーブルやお盆などの
木工品は、その光沢の美しさと高級感が好まれ、全国各地から多くの注文が寄せられています。また、家具としても重宝されており、良質の木に加え、伝統を受け継いだ加工技術も高く評価されています。
町では既存の特産品のPRとともに、塙の新しい名物となるような商品開発にも力を入れています。



神代からの酒、松美と里

もち』は、アケビに近いほのかな甘さが若者に人気です。『登り鮎』は久慈川にちなんだお菓子で、中に入ったぎゅうひの食感が特徴的です。このほか、清流をイメージした『奥久慈の清流』やユニークな形の『貝化石もなか』